

芥川だより

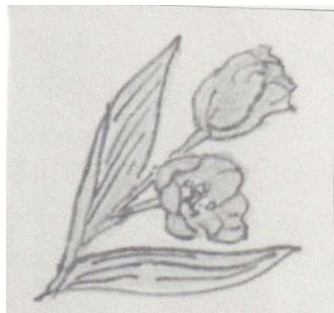
発行日 * 2024年3月1日 e-mail: ab_87968624@yahoo.co.jp

最新号から創刊号まで閲覧できます。 <http://akutagawadayori.sakura.ne.jp/>

編集 川口 伸
発行人 下村嘉明
〒661-0951
尼崎市田能5-3-10-601
☎090-8796-8624

***** 一部200円です *****

工事現場から考える職業教育の必要性



毎日働いている現場の作業員には様々な人が出入りする。中でも私の同僚である警備員の出入りも激しい。常時4名だとすると、毎日のように1~2名は日替わりメニューのように人が入れ替わる。その中には、必ずと言っていいほど発達障害を感じさせる人がいる。声が小さく動作も鈍く話をしたがらないし理解力も弱い感じである。一目見て自信がなく目をそらす傾向が強い。

私は、リーダーの立場が多く彼らに対して内心、またかと思ってしまう。入社まもなくから私は、不慣れな新人を相手に仕事をしてきた経験があるから、そんな人の使い方には少し慣れてはいる。会社の人事担当から「下村さんなら何とかしてくれるだろうと思ひ、問題ありそうな人はあなたに振っている」といったことがある。他のリーダーからは、相手にされないからこちらにまわってくるのだろう。

毎朝、メンバーの顔ぶれを見て自信のない人は、決して重要なポジションにはつかせない。休憩も平等に取るが回して休む時には彼は一番早く休ませ、2番手は次に自信がない人、3番目は使用できる人、4番目は私。書類もすべて、私が毎日書いて監督にサインをもらい提出する。こんなことを毎日やっているのだが、どうしても理解できない職業訓練の遅れや、ハローワークの後進性だ。

私が問題としている人たちは、別に知的障害者ではない。普通免許をとり一人で指定されたところへ行き仕事ができる。しかし、彼らの表情や態度からして自信がなく、これまで「ばか、アホ」と人からなじられてきただろうと想像できる。「彼らは、少しだけ理解力が遅いか動作がゆっくりしているかなのだが」現場の監督や警備の先輩から怒鳴られたら、もう一瞬にして固まってしまい、右へ行かなければいけないのに、とっさに左へ走っていきこうとする。学校制度を見直し、幼年期から将来の安定した生活を考えた職人教育をし、劣等感や自閉的な性格を予防し明るい未来を考えられるようにすべきだ。移民問題とも関係するが日本を多様な人々が楽しく暮らせる社会に。

死をめぐるあれやこれ(111) 石川 吾郎

いまさらのコロナ

この二月、いまさらながら小生、コロナに罹ってしまった。はじめは、単なる風邪症状と何も変わらなかった。ちょっと熱も出たかもしれない。それもまもなく軽くなっていった。その程度だったので、医者にかかるタイミングも逸してしまった。◆ところがその後がいけなかった、だんだん身体のたるさを強く感じるようになって、それがいつまでも続く。とくに不眠の日が続いて、一日中頭がぼんやりする状態からなかなか抜けれない。以前にもらっていた睡眠導入剤を飲んでも全く効果がない。食欲がなく、味もおいしくない。そんな状態が3週間ほどたつて、たまたま体重をはかると、五キロほどもやせていた。太りすぎみで、これまで何度もダイエットを試みたことがあったが、こんなに体重を落とせたことはなかったのだが。そのうちカラーの匂いをさっぱり感じないことに気がついた。それでいろいろなもの匂いをかいでみるが、全く匂いが無い。ようやく、自分がコロナに罹ったんだという確信にいたつた。◆結局、医者に診てもらったことのないままになった。強烈な不眠は改善してきたが、頭の働きがぼんやりして、細かいことを考えることができないという気は、程度はましになったものの、まだ続いている気がする。これもコロナの後遺症のブレイン・フォグ(脳の霧)というやつに違いない。◆発症か

ら一月がたった。匂いは、妻が揃えてくれた四種類ほどの匂いのエッセンスを毎日かいて訓練したたまものか、少しずつ回復をしている。ブレイン・フォグもこの文章を書けるくらいには回復してきた。ただ体重が減って、筋肉量もだいぶ失われてしまったようで、階段を上るのが苦しい状態が続いている。今は筋肉をつけるために、タンパク質を多く取るようにして、できる範囲で運動を心がけている。

◆調べてみると、2月末現在コロナは再び増加しており第十波の流行になっているらしい。第五類に格下げされたといっても、読者の皆さんは是非ご用心あれ。さる知人によると、早めに病院に行き、検査でコロナ陽性と診断され治療薬を処方されて飲んだら、その人にはかなり効果があったとのことだった（ただし相当高価だそうだが）。早めに診てもらおうべきだった。



芥川だより二〇六号 目次 ページ

巻頭エッセイ	下村嘉明	1
巻頭コラム III	石川吾郎	1
素老人☆よもだ帳 120	坂本一光	2
哲学者の時事放談 70	祖蔵哲	3
大峰奥駆道 76	下村嘉明	6
新型コロナウィルス愚考 その 42	明石幸次郎	6
オクラの山たより 90	因了生	7
隠された歴史 65	満田正賢	10
俳句	影山武司	12
編集後記	S K 生	12
ふみの道草 68	山椒魚	13

素老人☆よもだ帳 (120)

坂本 一光

◆人類を生んで未完の青い星

昨年十月、東京農工大学大学院農学研究院（共生持続社会学部門）の元教授で社会学博士の亀山純生さんが亡くなられた。氏は大学の一年先輩で同じサークル

に所属していた。氏のことを少し記録にとどめておきたい。

哲学者・宗教家として生きた亀山さんの思いを知りたくて、手に負えるはずはないが、二〇〇三年に大月書店から発行された『中世民衆思想と法然浄土教（歴史に埋め込まれた親鸞像）への視座』を読み始めた。遠い学生時代のこと、セツルメント活動地域で火事があり亀山さんが読経されたことを聞いて、北陸のお寺の出身であった事を知った。私が三十二年前に父の七回忌に作った坂本敏昇句集『花蜜柑』をお送りの縁に、亀山さんは専門の著書を出版すると私にまで送ってくださったことが二度、三度とあった。中世と言う時代を生きた親鸞について何の知識もないが、親鸞が時代に規定されながら宗教者として民衆と共に時代をどう超えようとしたのか、少しでも理解したいと考えている。

昨年十月末に亀山さんご逝去の報に接し驚き、その余韻も醒めぬままの今年元日、能登半島に大地震が発生した。

人類を生んで未完の青い星

地球は、

天災といくさ勃発する世界

に成り果ててしまった。

らんまんの春の平和の遠い星

ではあるが、人類解放について何の見通

しも手立てもない中世の世を宗教者として生きた親鸞を知ること、前を向いて現在を生きるほかない者にとって時代を生きる意味を考える示唆を与えてくれるかも知れないと思っている。

そんなことを思つて先述の書を読み始めたところ、思いがけなく、先の書に続いて二〇一二年、東日本大震災の後に亀山さんが出した著書『災害社会と東国農民と親鸞浄土教』をいただいた時の添え書きが出てきた。以下に紹介したい。

「坂本一光様
いつも味わい深いお便り、ありがとうございます。
つるべ落としの秋の夕日のごとく、あつという間に冬の風情を漂わす昨今です。御無沙汰しておりますが、お元気にお過ごしのことと、お慶び申し上げます。私も、この三月で定年を迎えますが、その感慨にふける余裕もなく、大学最後の〈御奉公〉に〈こき使われて〉おります。冷静に考えるとそれほどの仕事でもないのですが、いつも締切りや時間に追われ（休日）がないと感じ、一日でいいからゆっくりと温泉にでもつかりたいと〈渴望〉しています。それも、一方では、毎週、週末に東京と石川を車で往復した十一月に典型的なように、田舎の用が多かったこととも相まって、他方では、相当地にキヤパシティが落ちており、まちがいなく定年直前の〈等身大の自分〉を思い知ら

されております。

さてこのたび、農林統計出版より『災害社会・東国農民と親鸞浄土教』―(歴史に埋め込まれた)親鸞と思想的意義―を刊行することができました。

「あとがき」で記したように、本書でその輪郭を明らかにした歴史学的親鸞と思想的親鸞の(統一)的解釈―(歴史に埋め込まれた親鸞)像は、学生時代のセツルと大学紛争に淵源する私のライフワークです。この問題ゆえに研究者(大学の職)となり、専門の哲学・思想研究の方向性が拓かれました。それは、唯物論研究協会はじめ研究仲間との継続的交流のおかげで、私なりに(近代)の相対的批判の、スローガンでなく具体的論点を研ぎ澄ますというスタンスへと深化されたと自認しています。そして、その点から環境倫理や宗教論を通してライフスタイルの根本的転換の提起を、若干の出版物を通してできたと密かに自負しています(社会的影響力が皆無に等しいのが力不足であり、残念ですが)。それらを踏まえてライフワークの課題、原点の親鸞像の再構築に正面から取り組んだ(まとめ)が本書です。

実は、この仕事は、定年後にじっくりと取り組む予定でした。ですが、私の前著を見たある未知の出版人から親鸞論そのものをまとめるよう強く勧められたのが機縁で二年前から着手し、その後その

出版人の(不幸な事情)や出版状況の悪化から(お蔵入り)寸前に追いつまれました。それが不思議な縁で(蘇った)のが本書です。あらためて不思議な縁を感じるとともに、学生時代以来五十年近くもの時間を経てようやく、原点の問題に一定の(答え)を出せたことに、静かな喜びをしみじみと味わっています。もとより、内容的には骨格・輪郭の提示でしかなく、未だ道半ばの中間まとめでしかありませんが、ともかくやつと一山越えられたな・・・と。そして、この五十年近い私の生の(危機)の連続を思うにつけ、ここまで来れたのも多くの有縁の皆さんの励ましのおかげと深謝するとともに、最近、道半ばにして逝く同年代・後輩の続出の中で、今日まで生かされた(いのち)の縁の不思議さに頓首せざるをえません。

その意味で、長らくおつきあいいただき、何かと励ましを下さった貴兄にも、報告とささやかな感謝をこめて、本書を贈呈させていただきたく思います。各位にとつてはこのような本は興味の範囲外かもしれませんが、以上のような本書への私の(思い入れ)をお汲みいただき、お納め下さりお手元においていただければ幸いです。そして、お暇な折に、第一章、第二章だけでも一読いただければありがたいことです(ここは、定説・教科書的な親鸞像の書き換えを(伝記)風に記述しています)。そして、さらに興味

がつのれば、三章を飛ばして(これは本書の理論的核心ですが、専門外の方には難解かもしれません)、先に四章、五章(東国民衆と親鸞の矛盾を記述)へ、さらに六章(現代を射程に思想的意義を記述)へと進んでお目通しただければ、望外の喜びです。

向寒の折、ご自愛くださいませよう念じつつ、また、命の縁に恵まれ、折あらばお目にかかれる日を楽しみにしつつ。
二〇一二年十一月二十八日

親鸞往生の日に

亀山純生

この手紙と本をいただいたとき、私は、すでにその四年前に、定年五年前であったが大学の職を辞し、大分に定着を始めていた。十二年前に戻ることができれば、と思うこと切である。

(かたちは心であり、心はかたちになる■大分の素老人)

「哲学命い」の時事放談(70)

祖蔵 哲

〓ダブル・スタンダードの哲学〓
今月は冒頭から戦争の話題である。イスラエル軍とパレスチナ自治区ガザ地区のイスラム組織ハマスの戦闘で、昨年十月七日の戦闘開始以来のガザ側での死者が先月末で三万人を超えた。ガザの人口は二百二十万人ほどで、この戦争でおよそ七十人に一人が死亡した計算になる。この戦闘はハマスの奇襲攻撃で始まり、イスラエル側で千三百人ほどが殺害され、二百五十人が人質となったが、その直後、イスラエルは猛反撃に出た。イスラエルが「倍返し」ならず「十倍返し以上」をする理由は、この事件がイスラエルに歴史的な深い傷を与えたことにある。世界最古の経典と言われているユダヤ教やイスラム教に影響を与えたハンムラビ法典には「目には目を歯には歯を」という報復律がある。これは、人が誰かを傷つけた場合にはその罰は同程度のものでなければならぬという過度な復讐を諫める定めであり、旧約聖書にもその旨は記されている。イスラエルは神にも背いているのか。

イスラエルは1948年の建国以来、多くの戦争を経験してきた。だが一日に

約千四百人もの民間人がテロリストに殺されるという経緯は初めてだ。イスラエルの大統領は「四十年代のホロコースト以来、このような事態はなかった」と言い、「イスラエルの9.11」や「イスラエルの真珠湾攻撃」など過去の歴史的奇襲攻撃に例えている。一方で、イスラエルによる過度な反撃は国際人道法違反であると国連事務総長は非難し、国連の独立専門家グループは「ジェノサイドの重大なリスク」にさらされると指摘した。イスラエルはガザの「民族浄化」のために、住民を強制移動させつつ爆撃し、生活基盤を徹底破壊し殺害している。これに対して南アフリカ共和国は国際司法裁判所にイスラエルをジェノサイドとして訴えている。

この「ホロコースト」と「ジェノサイド」どちらも歴史的な背景をもつ概念であるが少し意味は異なる。まず、「ホロコースト」であるが、本来は古代ユダヤ教祭事で獣を丸焼きにし神前に供える「燔祭」を意味していた。ここから転じてナチスによるユダヤ人大量殺害を意味するようになったのは、大戦後しばらくしてユダヤ人の間で、「ドイツはユダヤ人を生きたまま火の中に投げ入れて焼き殺している」との言説が広く信じられたことから始まる。一方「ジェノサイド」は、第二次世界大戦中にユダヤ系ポーランド人法学者によって生み出された合成語である。ギリシヤ語で人種や種族を意味する

「genos」と、ラテン語で殺戮を意味する「cide」を組み合わせて作られた。ジェノサイドは特定の民族や人種、集団の全部または一部を破壊する意図をもって行われる行為を指す。これは直接的な殺害や暴力だけでなく出生制限や民族血縁浄化など間接的な迫害行為をも含む概念であり、現在進行形で起きている場合もある。1948年に国連でジェノサイド罪の防止と処罰に関する「集団殺害罪の防止および処罰に関する条約」が締結されている。これ以後、条約違反と提訴された事例は1970年カンボジアのポル・ポト政権による大量虐殺、1990年ルワンダの大量虐殺、1992年のボスニア内戦の民族浄化などがある。

今回のガザ戦闘に関してイスラエル側が「ホロコースト」という過去に自らが被った歴史を持ち出し、国際側が「ジェノサイド」というより大きな包括的概念で避難するにはこのような背景があるのだ。

もう一つの戦争、ロシア・ウクライナ戦争。ゼレンスキー大統領は、ロシアによる二年間の全面侵攻の結果、「三万一千人の兵士が殺された」とウクライナ兵の死者数を初めて公表した。兵士と民間人の違いがあるが、先ほどのガザでの犠牲者数と同じような規模である。ウクライナ兵の死者数については、米紙が米当局者の話として「約七万人」と報じていたがゼレンスキー氏これを否定し、一方

でロシア兵の死者数について「十八万人」と主張。ウクライナ兵に比べて圧倒的に多いことを強調した。憎しみが憎しみを生むよう、死者数を争うなどとはなんと愚かなことであろう。

さて、現在進行中のこの二つの戦争に対してアメリカと中心とする西側諸国は異なる態度をとっている。アメリカはロシアをジェノサイドとして非難している。実際にロシアのウクライナ侵攻が無差別殺人や子供たちの連れ去りなどジェノサイド戦争であることは次第に明らかになっている。ロシアのこの戦争をより大きな枠組みで歴史的文化的に解釈すれば、ウクライナは今も昔も存在せず、歴史から抹消されるべきだ、というのがロシアの考えのようだ。

しかし、一方でアメリカは同じようなジェノサイド行為をしているイスラエルに対しては見て見ぬふりをしている。「ロシアがウクライナを爆撃するのはいけないが、イスラエルはガザの住民を殺してもよい」この態度は「ダブル・スタンダード」である。最近「ダブルスタ」と言われているらしいが、まさしく「二枚舌」である。

(1) ダブル・スタンダードとは何か
ダブル・スタンダードの定義は複数の人・集団・事例に対して不当に異なる基準(規範)を適用することであり自己に都合の良い使い分けである。注意すべき

はこの「不当な」という要素である。逆に言えば「異なる基準の、正当な、使い分け」はダブル・スタンダードではない。例えば、今は大分考え直されているがジェンダー・ギャップについて

A: 女性は車を運転してはいけないが、男性は車を運転してもよい。

B: 飲酒した人は車を運転してはいけないが、そうでない人は車を運転してもよい。

Aはダブル・スタンダードだが、Bはそうではない。なぜならAは不当だが、Bは正当だと思われるからである。このようにダブル・スタンダードは「不当である」という要素を有するのである。では「不当」と「正当」とはどのようなことか。これは「正義」の問題である。

正義とは「正しき・まともさ。人間の行為や制度の正/不正の判断基準」である。では、正義はどのようなことを要求するのだろうか。正義の要求には「等しきものを等しく扱え」「異なる扱いをするならば、有意な理由を示せ」という二つの原則がある。先ほどの例ではBは有意味であるが、Aは何らの意味もない。人間という等しきものは公平に扱わなければならないのが正義の原則である。

振り返って、アメリカなどの西側諸国がとるイスラエルとロシアへの態度はこのダブル・スタンダードの典型である。「正義」、つまり等しく「人間」であるというガザやウクライナの人々は共通の基

準で判断されなければならない。一方ではイスラエルを支持し、他方ではロシアを非難する。これこそ正に「ダブル・スタンダード」の典型である。

(2) ダブル・スタンダードとしてのイスラエル建国

なぜ西欧諸国はイスラエルにあからさまな二重基準を適用するのであるか。それは恐らく、ドイツによるホロコーストやヨーロッパの過去のユダヤ人差別・迫害への負い目があるからであろう。これらは「反ユダヤ主義者」と呼ばれることを何よりも恐れている。イスラエルの戦争犯罪を批判することと、反ユダヤ主義は全く異なるのであるが。

もともとパレスチナは聖書で「乳と蜜の流れる土地」とたたえられ、十字軍やナポレオンの遠征など世界史の舞台にもなってきた。16世紀以降、この地はオスマントルコ帝国の一部として、イスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒が共存していた。しかし19世紀、西欧帝国主義諸国が中東に進出し、オスマン帝国は崩壊の危機を迎える。それに合わせオスマン帝国からの独立を目指すアラブ人の民族主義の動きが活発化する。またヨーロッパで差別や迫害を受けていたユダヤ人の間では、パレスチナに民族国家建設をめざす「シオニズム」が生まれた。19世紀末、ロシアでのユダヤ人の迫害を背景に、ユダヤ人のパレスチナ移住が盛ん

になりはじめ、ユダヤ系資本によるパレスチナの土地の買い占めが始まった。そして第一次世界大戦中、イギリスは戦争資金を調達するためユダヤ人コミュニティに協力を仰ぎ、「パレスチナにユダヤ国家建設を支持する」と表明した書簡「バルフォア宣言」を送った。しかし同時に、オスマン帝国からの独立をめざすアラブ民族主義をも利用すべく、メッカの太守フセインに対してイギリスへの協力の代わりに「アラブの独立支持を約束する」という書簡を送り「フセイン・マクマホン協定」を結ぶ。そしてさらに同盟国であるフランスとは、戦争終結後は分割するという「サイクス・ピコ協定」を秘密裏に結ぶ。これはダブル・スタンダードならぬ「三枚舌外交」だ。そして第一次

大戦は英仏同盟国側の勝利により、パレスチナとヨルダンはいギリスの、レバノンとシリアはフランスの委任統治領になった。イギリスがアラブとユダヤ双方に対し相反する約束をしたことが、現在も続く二つの民族主義の衝突の芽となった。

第二次大戦後、世界は凄惨なナチスによるホロコーストの事実衝撃を受け、その影響で「ユダヤ人国家建設」というシオニズムの主張が力を持つようになった。そして国連はパレスチナの土地にアラブとユダヤの二つの国家を作るという「パレスチナ分割決議」を採択する。しかしその内容は、パレスチナに古くから住む多数のアラブ系住民に43%、新し

く移住してきた少数のユダヤ系住民に57%の土地を与える極端に不平等なもので、アラブ系住民とアラブ諸国から猛反発が起こる。パレスチナを統治していたイギリスは、自らが招いた「ダブル・スタンダード」の結果であるアラブ民族主義とシオニズムの対立の激化になすすべなく、一方的に撤退した。そのような状況で1948年にユダヤ側は一方的にイスラエル建国を宣言したのである。

(3) ダブル・スタンダードの解決はあるのか

ダブル・スタンダードは日常レベルから政治、経済、文化、国際レベルまでの広い分野で存在する。それは不公平や不平等を生み出す原因となり、特に性別、人種、職業などに基づいて異なる基準が適用されることは、社会的な不正義や差別の問題を引き起こす。政治、国際問題に関して行われると現在のように自国優

先主義や軍事や暴力による権威主義が横行することになり、分断、対立、混乱の世界が出現する。これらを解決するには偏見やバイアス、因習など個人レベルの間違った基準を取り除くことである。しかし、これらは容易ではない。なぜなら支配する側は被支配側が一致団結して自らに歯向かわないように敢えて「分断」を作り出すからである。現在はAIを駆使してフェイクニュースや偽画像を流して巧妙に分断を煽る。

ダブル・スタンダードは「絶対的正義」が存在するという考えから出てくる問題である。先ほどみたように「正義」には「正当な正義」と「正当でない正義」がある。ダブル・スタンダードはこれらをどちらも正義といい「絶対的正義」があると主張する。「正義とは勝者の原理である」という言葉が存在する。このように都合主義の絶対的正義がダブル・スタンダードを用いるのだ。絶対的正義はない、それではすべて正義は相対的か。つまり、正義は時と場合によって変わるのか。そうではないだろう。正義とは先ほど定義されたように「等しきものを等しく扱う」これが基本原理である。「人間は生まれながらにして自由かつ平等であり、生来の権利を持つている。『世界人権宣言』の思想を作ったフランスの哲学者ルソーの言葉どおり「人間とは何か」が原点である。

以上、今月は「二重基準」について哲学してきた。しかし、問題が残る。「殺すな」という倫理的基本命題から出てくる「全ての戦争は悪であり不当である。」ということが現実問題として簡単には言えないということだ。イスラエルもパレスチナも悪い、ロシアもウクライナも悪い。「喧嘩両成敗」こう言ってしまうと最初に攻撃した側や侵略した側の責任を問えなくなるからだ。現在、国際法は自衛権行使を認めている。さらに集団的自衛権

によって戦争は拡大していく。「理想・理念」と「現実」はますます乖離していく。

このような中で「哲学」するとはどうよ
うな意味があるのか。そんな逆境の世に
あっても「思考」し続けたい。

大峯奥駈道(76)

体験型人間学 26

下村 嘉明

悲しいかなこの世の中健常者ばかりで
はない。生まれながらにして障害をもっ
ている多くの人がある。決して少ない数
ではないが、健常者には目につきにくい
存在でもある。私が、彼らに少し関心を
持ち出したのも最近だ。高槻で商店をや
っていた頃、近くに障害者の店ができた
のが、彼らに関心を持つきっかけだった。
もちろん、小学生の時からクラスの中
には2人ほどは知恵遅れのような子がいた
のではあるが、関心を持つてはいなかつ
た。それより、自分の事が最優先であつ
たからだ。

近所にも知恵遅れのおばちゃんがい
いつもげらげら笑っていた。しばらくし
て街の風呂屋へ連れていかれてみなくな
った。家の人たちにも、好ましい存在で
はなかったのだろう。何かにつけ、村の

者が話の話題にして笑いものにされてい
たからだ。

下層労働者が多い警備会社でも、バカ
ではないが、少しのろまで役立たずの人
が現れては消えていく。決してバカじゃ
ないが賢くもない。しっかりと話がで
きない。私が半年あまり毎日ともに働い
た彼の話では、バカのいく高校へ行き卒
業と同時に工場に就職し、しばらく働い
た後、いくつかの職場を転々とする。一
番良かったのは駐輪場の管理だったが、
合理化で失業し警備会社に来た。いろい
ろと彼の個人的なことを聞くと彼は嫌が
った。彼は断念ながら、今の仕事では長
続きしないと感じたので。数年したら6
0歳になるから、社会福祉課へ行き生活
保護の申請をしてみてもどうか、という
彼はひどく怒った。私もひどいことを言
ったものだが、彼の生活ぶりをみていた
ら、社会保障の公的な管理下に入った方
がいい。彼と仕事をしなくなつた日、
何人かに彼の様子を聞いたが、いい話は
なかった。

身体的な障害者はすぐにわかるが、知
的な障害者は程度の差があるが、わかり
づらい。しかし、彼らこそ幼少期からそ
の症状はあるはずだから、周りの人は児
童相談所へいき、しかるべき学習の機会
を与えるべきだと思う。職人になるべき
生活から考え方、少し古臭いが昔の徒弟
制度のようなものを参考にしてもよい。
一生安定した生活が出来そうな職種を学

ばせる。ばかだ、アホだと周りからいじ
められる環境に一人ぼっちでほかしてお
くべきでない。彼らの人権を尊重するな
ら、彼らにあつた進路を考えるべきだ。
少子高齢化社会になって、日本も移民
を受け入れざるをえない。これまでのよ
うな社会的な慣習は壊さざるをえない。
多様な文化、習慣、人種、宗教を受け入
れ多様な多民族国家をつくるためには、
その試金石として、取り残されてしまつ
た労働者、特に知的な発達障害者をかか
えて生活に困っている人たちの救済から
始めようではないか。

新型コロナウイルス禍愚考

(その42)

明石 幸次郎

小生の「芥川だより」の「幸せとはな
にか」の駄文を見た12歳下の友人から、
感想をもらいました。曰く「世の中には
十人十色の幸せがあつて幸せという言葉
が何を意味しているかは人によって異な
るものかなと、それでも人は誰でもが幸
せを求めている。自分の場合は幸せとは、
平穏な心の状態かなと思います。心が何
に対しても執着を起さずに平穏である

こと。今、自分の身に起きていることに
対して良し悪しといった価値判断をつけ
ず、ありのままに受容すること。水鏡の
ような平穏な心で生きることが幸せかな
と思う」という考えです。

この友人が言う「平穏な心の状態」は
幸せを感じる大事な要件ですが、世の中
には、なかなか、心を平穏に保つて「幸
せ」を感じることが出来ない人も多いと
思います。

私がやっているボランテニアに電話を
掛けてくる人は殆ど、この「平穏な心」
を失つて、中には長く精神的な病いに苦
しんでいる若い人も多くいます。

人間が幸せに生きて行く上で、大事な
安定した心の状態を得るのは、生まれた
時から幼少期までに親、特に母親(養育
者)との安定した愛着が必要となると言
われます。生まれた子供は、親、特に母
親とのスキンシップ、授乳、抱っこ、サ
ポートなどでゆるぎない愛着が起こり、
何かがあれば、母親か傍にいたりとか誰か
が助けてくれるのを脳に記憶され、それ
が子供の心の安定、安心感に繋がり、こ
の愛着がその子の生きる上での人格の土
台の部分となるようです。

この安定した愛着スタイルを持つこと
が出来た人は対人関係、仕事においても
高い適応力を示し、又、自己肯定感も高
く、人と上手くやっつけていくだけではなく、
人と深い信頼関係を築き、それを長年に
亘って維持していくことで幸せを手にし

やすくなるようです。

幼いころにしつかりと守られて育った人は、大人になってからも自分をうまく守れ、ある研究では、二歳の時点で親から十分なサポートを得られた人の場合、青年期になってから、恋人に気軽に頼る傾向が認められている。それは、逆に言えば二歳の時点で親からの支えが乏しかった子供では、恋人にうまく甘えられないということでもある。又、愛着の安定性がうつ病やアルコール依存症の発症リスクに関係しているとも言われています。生まれた時から3〜4歳くらいまでにどう親に愛情をもって育てられるかでその子の人格の土台が形成され、幸せを感じられる心の安定、安心が得られというのは、大きな問題です。逆に親の暴力、育児放棄、家庭の諸事情、経済的事情に寄って、十分な養育、サポートが得られなかった人は、大きなハンデキャップを生まれながらにして負うことになりかねません。この最も大事な人格の土台形成期に十分な愛着を得られず育った人は、自己肯定感が低く、人に対する信頼感が薄いし、人に甘えたり、人に頼ったりすることが中々出来ないと言われています。生まれながらにハンデを負わされ、世に出てからも、恵まれて育った人と対等に競争社会で生きて行かなければならない日本の現状は、どこか歪んでいますね。恵まれなかった人に多くの犠牲を負わせ、社会的に多くの問題を内包させています。

其のことが表れている世界の中での国民の幸福満足度は、我が国は世界でなんと、5位です。因みに1位（フィンランド）から9位（ルクセンブルグ）までがヨーロッパ諸国でアメリカは15位、ドイツは16位です。アジアで一番高い国は、25位のシンガポールで続いて27位の台湾です。韓国は57位、中国は64位です。

日本の人口が減り続け、政府は慌てて異次元の少子化対策とやらを行うようですが、まずやるべきことは、教育の無料化、非正規社員、パート社員の労働賃金を上げる、更に男女、同一職種の賃金格差是正、18歳までの医療費無料、子供手当の拡充を行い生まれながらのハンデキャップを無くすことです。因みにドイツは大学までの教育費は無料、子供手当26歳まで約3万円/人、出産費用無料、出産後は保健師がこまめに家庭訪問をしてくれる。非正規社員と正規社員の賃金格差は少ない。労働時間が短い、残業はほぼゼロとのこと。若い人が結婚出来、又、子供を育てやすいような、経済インフラ、環境、社会のサポートを整えること政府、自治体、企業、社会がやって行くことを、これからの世代は求めていると思います。

若者よ！ 年寄りに負けず政治に関心をもち、自分たちの満たされていない要求を実現するために政治に関心を向け、より良き政治家を選ばなければならぬ

と思います。政治家の良し悪しは、我々国民の良し悪しで決まるものです。

ある種の幸福感を得ようと思えば政治に期待し続けなければ、得られない世の中です。

オクラの山たより（90）

困了生

一

小林一茶の俳句が理解する上でやさしくなっているのは文芸の大衆化と関わりがあり、それは一茶が近代俳人の始まりであることの証しなのではないかという見方を紹介しました。

一茶の死後、田川鳳朗や桜井梅室が活躍した天保期の俳句は子規派たちによって卑俗陳腐にして見るに堪えないとされ「月並調」とけなされます。

月並な俳句といっても一律につまらない句ばかりであったとは限りません。次の句はかなり高い評価が得られる句です。

・深山木（みやまぎ）の底に水澄む

五月（ごがつ）かな 鳳朗

・海苔（のり）の香（か）や障子にうつる

僧二人 梅室

しかし、これらの句に比して次の句は言葉遊びがすぎて子規は目をつり上げて怒ったに違いありません。

・三木にあれど森にならぬ柳かな

梅室

次の句も把握の仕方が小さく固定されて小さな技巧によって詠まれた句です。

・雪の中の雲見つけたり一つ松 鳳朗

・鶯や二声きけば見たくなる 梅室

月並調の句は悪い句ばかりでもないといっても詩歌に必要な「新しさ」が乏しく胸打つものが少ない点、やはり子規らにけなされた要因でしょう。子規は「俳諧大要」で「俳句は文学の一部なり。文学が芸術の一部なり。ゆえに美の標準は文学の標準なり。文学の標準は俳句の標準なり。……一般に俳句と他の文学とを比して優劣あるなし」と書いているように、子規は俳句に思想や理屈を持ちこむことを嫌い何よりも美的感覚に重点を置いた人でした。芭蕉を批判し蕪村を持ち上げたことで有名な子規ですが、子規自身は芭蕉の業績は十分に評価し敬愛もしていたのですが、理念に傾くからいのある点は詩としての純粋性に欠けると考えていました。ましてや芭蕉を神聖化して芭蕉のいう理念をやたらとありがたがり、新鮮な着想もなく過去の俳句の焼き直しの句を作り続けてきた天保期の

俳人にはかなりの嫌悪感を抱いていたようです。

二

子規は一茶の俳風を「滑稽 諷刺、慈愛」の三点を挙げて

中にも滑稽は一茶の独壇場に属し、しかも軽妙なること、俳句界数百年間、僅かに似たる者をだに見ず。

といいきつています。確かに今までに何度か紹介した一茶の有名な句、たとえば

- ・これがまあつひの栖すみかか 雪五尺
- ・痩せ蛙負けるな一茶これにあり
- ・雀の子そこのけそこのけお馬が通る
- ・やれ打つな蠅が手をすり足をす
- ・むまそうな雪がふうはりふうはりと

をみれば子規のいうのももつともだと考えられます。そして、これらの句には芸術的な至高性よりも、そうしたものからは外れた野性的ともいえる一茶の体臭が漂っており、さらには平明さ・通俗性・即興性が感じられ、あたかも童謡を聞いているような感じもあります。しかし、その一方で子規からは写生句として評価されそうな次の句、たとえば

- ・大ほたるゆらりゆらりと通りけり

- ・有明や浅間の霧が膳を這ふ
- ・しづかさや湖水の底の雲の峰
- ・霞む日や夕山かげにの飴の笛
- ・春風や鼠のなめる隅田川
- ・蟻の道雲の峰より続きけり

などは一茶的な体臭を欠いているといわざるをえません。あの一茶的な泥臭さ、あくの強さがなく、あくまでも主観を排した見方がこれらの句にはあるからです。こうした句に比べ私には次の同じ一茶の句が気になります。

- ・洪柿をはむは鳥のまま子かな
- ・椋鳥と人に呼ばれる寒さかな
- ・涼風の曲りくねって来たりけり
- ・心から信濃の雪に降られけり
- ・梅が宿どなたが来ても欠け茶碗
- ・ずぶ濡れの大名を見る炬燵かな
- ・春風や侍二人も犬の供とも

信濃の柏原で生まれ幼少にして母を失い継母からはひどい扱いを受け（客観的に同化は不明だが、一茶自身はそう思っていた）、十五歳で江戸に奉公に出て苦しい生活の中で思いがけず俳諧と出会った一茶が業俳（プロの俳諧師）となつて全国に知られる俳人となったが、遺産相続のもめごと片づいて故郷に帰り妻を迎えるも二人の間に生まれた四人の子はすべて早世し、三度目の妻のお腹に子を残して死んだ俳人。一茶の人生を一言でい

えばこうなるでしょうか。

そうした一茶の人生を振り返れば「ひねくれ者」「不平多かりし人」となるも無理からぬことです。そんな一茶にとつて現実世界から遠くはなれた世界を理想として庶民が抱く思いを無視して離俗の世界に浸りきることはできなかったのではないか。当時の俳人たちが考えていた芭蕉が理想としたとされる離俗の世界を心におさめながら、自分の人生の体験から無視できない不合理な現実世界へのつ

ぶやきをそのまま俳句にしたといった句が二万句を超える一茶の作品の中には多くあり、そこが同時代の俳人たちが天保期の月並調へと墮していく流れから超脱した地歩を一茶が得られた要因ではないのか、と考えます。そうした句をいくつか示すと、

- ・玉あられ夜たかは月に帰るめり
- ・霜枯れや鍋の炭かく小傾城
- ・木枯らしやから呼びされし按摩坊

これらの句には理不尽な世に對するつぶやきだけでなく一茶のヒューマニティーも感じられます。一茶を滑稽句の俳人とした子規が触れることのなかった「ひねくれ者一茶」の見過ごせない一面です。

蛇足ながら、筆者の好きな句は「霜枯れや鍋の炭かく小傾城」です。「小傾城」はまだ成熟していない宿場女郎のこと。寒い北風の吹く中でまだ少女のような宿場女郎（飯盛女ともいい、この遊女と一夜をともしようとすると一泊の宿賃込みで四百文ほどの銭を必要とした。現代の八千円ほどか？）がせつせと鍋にこびりついた炭を掻き落としとしています。客を取りはじめてまだ間もない遊女なのでしょう。こんな少女がこれから先どれほどの辛酸をなめていくのかと感じている一茶の人間社会の矛盾への怒りや哀しさ、その社会の底辺で生きる人間を慈愛に目で見つめる一茶の感性が感じられる句です。ああ、一茶の句

だなと思える作品です。繰り返しになりますが、写生句のような客観的な視線もありますが冷たい世相の中で底辺に生きる人々への一茶のヒューマニティーに満ちた目は「鬮売り」、

- ・越後女の哀しさを
- ・鬮めせめせと泣く子負いながら 善光寺御堂庭之食
- ・重箱の錢四五文や夕時雨
- ・乞食子や膝の上までけさの霜 橋上乞食
- ・母親を霜よけにして寝た子かな
- ・木枯らしや地びたに暮るる 辻諷（つじうたひ）
- ・木枯らしや二十四文の遊女小屋 護持院ヶ原
- ・追分（浅間山麓の宿場）
- ・「乞食子」、「橋上乞食」の子、「辻諷ひ」、「二十四文の遊女」、「夜たか」、「按摩坊」に向けられています。

不合理な社会に批判の目を向け、人生の敗残者となって悲惨などん底生活を送る人々を凝視する一茶。高尚な離俗の世界だけではなく世俗にまみれて貧しい生活を送る人々の姿にも詩はあるのだ。芭蕉ではわずかに蕪村の句では少しばかり見え始めた、そうした見方が一茶の俳句には一段とはつきり見えてきます。一茶を近代俳人のはしりとするならば、近代化Ⅱ大衆化というとらえ方も正しいとは考えますが、こういう点も見落とせないのではないかと筆者は考えるのです。

三

さて、業俳（プロの俳諧師）としての一茶の活動地域は主に江戸、上総（今の千葉県中央部）、下総（今の千葉県北部と茨城県南西部）、そして北信濃の地です。その地には俳諧を介した多くの交友関係があり、一茶の門人となる人も少なからずいました。

その中の一人に今の千葉県南部の富津市にいた織本花嬌（1755?~1810）がいます。花嬌はかつて一茶が限らない愛をささげた女性であり、実ることのない恋に苦しんだ相手であり、彼女の死後に心こめて追善集を編んだとされた女性です。しかも大場俊助氏の著作「一茶の愛と死」によれば、この追善集は「永遠の女性に寄せるかぎりなき愛情と悲嘆のメモリアムであり、永劫の愛のしるしにささげた愛の花輪であったのだ」だそうで

すから一茶についてあれこれと書いてきた、この文章でも触れないわけにはいきません。

花嬌は織本嘉右衛門の妻でした。織本家は上総国君津郡随一の大地主で、上総第一の造り酒屋であり、金融業も営むという豪商でした。しかし、房州では指折りの富豪でしたが嘉右衛門は商売だけでなく教養もあり、江戸の俳人大島蓼太（りょうた 1718~1787）に入門して俳諧を学んでいました。妻も夫に従って大島蓼太に入門し夫婦そろって俳諧作りにいそしむこととなります。花嬌の本名は「園」ですが、花嬌の名は大島蓼太がつけました。

「花嬌」の「嬌」は「しなやかで美しい」「あでやか、なまめかしい」です。花嬌は要するに、大変な美女であったのでしよう。

夫の死後、一茶の門人となった花嬌は一八〇五（文化二）年から一茶が始めた「一茶園月並」という刷物（ずりものⅡ印刷物）のことで「一茶園月並」は今でいう月刊誌でした）に毎月投稿しています。「一茶園月並」に掲載された句を次に紹介してみます。

- ・有明の笠の雫（しずく）や蚊のゆくへ
- ・夏木立羅漢まじまじおはすなり
- ・松の木の下陰作る夜寒かな
- ・冬枯れや仲良く見ゆる三軒家

どの句も写生的な句で素直な句が多く、

師の大島完来（大島蓼太の養子で四世雪中庵と号した）の影響が強いと考えられます。花嬌の代表句は

- ・用のない髪とおもへば暑さかな
- ・名月や乳房くはへて指さして

の二句とされます。「用のない」の句は暑い夏の日女の長い髪は役に立つものではないと思うと、よけい暑さを感じるという句意。また、「明月や」の句意は赤ちゃんが、乳房をくわえて、月を指さしています。なんと可愛いこと、です。いずれも奇抜な趣向の句ではありませんが、実感が伝わってくるいい句です。

一八〇七（文化四）年、この花嬌から一茶へ句会の謝礼として金百疋（金一分Ⅱ一両の四分の一）が入った手紙が届きます。一茶が通常もらっていた謝礼は南鐙銀一片（二朱Ⅱ一両の八分の一）ももらえれば上等であったので、一分は当時の謝礼としては最高額といってよい額でした。花嬌が富裕であったのは確かですが、一茶への傾倒も相当なものであったことがうかがえます。

一茶と花嬌とは房総の俳諧仲間と繰り返し連句の会を催して楽しい時を過ごしています。

そして、一八一〇（文化七）年、花嬌が亡くなったのを一茶が知ったのは葬儀の後でありましたが、富津での「百カ日法要」には参列しました。一茶の追悼の

句は次のようです。

- ・草花や言ふも語るも秋の風
- ・あさがおの花もきのふのきのふかな

一茶にとって花嬌は門人であり、「花」と形容すべき美しく忘れがたい女性であったのでしよう。

さらに花嬌の三回忌に詠んだ追善句が有名です。

- ・目覚しの牡丹芍薬でありしよな
- ・何をいふ張り合ひもなし

芥子（けし）の花

「牡丹芍薬のような、目の覚めるような人」、美しい「芥子の花のような人」とありますから、花嬌は、本当に美しい女性だった、というわけです。ただし、この句は遺族の家で詠んだものですから、故人をたたえる句であることに留意すべきでしょう。

この三回忌に参列した途中で一茶は

- ・亡き母や海見るたびに見るたびに

という句を詠んでいます。この句を読むと一茶が八歳年上であった花嬌に抱いた気持ちは恋する女性へのそれとは違って三歳の時に死に別れた母への思いに近いものであったのではないかと、思えるのです。

花嬌が優秀な門人で一茶にとつて忘れがたい人であるなら、別な意味で忘れたい門人が一茶にはいました。故郷柏原で唯一の門人でいずこともなく立ち去って行方知れずになった中村二竹のことはすでに述べましたが、ずいぶんと句の指導で手を焼いた門人がいました。その門人の句を添削指導した資料が残っています。一茶がおこなった添削の資料を残したのは越後の蔵々(ぞうぞう) 今の新潟県妙高高原町蔵々です)の人で脇往還の旅宿の主人後藤甫外です。

甫外は学問好きで一八一九(文政二)年、五十五歳で一茶に入門しました。一茶より二歳年少です。甫外の日記に次のような記述があります。

卯正月七日、柏原一茶先生江尋参

俳名甫外 拙者名、如斯改

先生は月の如し。われは兔に似たり、

月見んと柏の原へ出る兔

甫外

年五十五歳

蔵てふ蔵は 俳諧の秋

一茶

年五十七歳

いざのぼれ花の白雪ふむ迄に

一茶

甫外の挨拶の句に一茶は「蔵てふ」と連句の作法通りに脇をつけました。「いざのぼれ」は甫外をはげます句です。

甫外は熱心な門人でしたが、まったくの初心者で、一茶は俳諧のイロハから教えねばなりませんでした。しかし、少しやり始めると面白くなったらしく、知己友人を誘って、越後方面に門人を多く増やしてくれました。その点は一茶にとつては好都合でしたが、甫外の句の添削は少し手がかりました。たとえば甫外から送られてきた次の句です。

・順風に真帆うち掛けて異国船

この句に一茶は「無季の句はよろしからず」と記して返事をする、甫外から今度は「よーし、それでは」とばかりに

・秋風や鹿の香淋し紅葉山

と書いてよこしました。十七文字の中に「秋風」「鹿」「紅葉」と季語が三つもあります。一茶はヤレヤレと思つて「あまりに季たくさん」と記すしかありませんでした。さらに別の日に甫外は

・春日野にさまよふ鹿の数知らず

という句を書いてよこします。このような句に一茶は師匠のお手本の句を示します。

・春日野や何をうつろる迷ひ鹿

甫外のうすぼんやりした句がグンとよくなっています。こうした例を甫外が残した資料から拾うと次の句があります。()で示した句が一茶が手直した句です。

・山寺の鐘の響きに混ざる雪

(初雪や鐘の響きに降りつる)

・引き残す案山子もあはれ落葉かな

(引残す野辺の案山子や散る落葉)

・八重菊やみなうつむひて惜しきかな

(大菊もつつむひて咲く在所かな)

・ひとりして山路淋しき鹿の声

(一人して聞くはなをさら鹿の声)

甫外の句はどれも中学生や高校生が国語の時間に作るような句ですが、一茶の作るお手本はさすがに俳句としてさまになつていて一茶の添削の上手さがわかります。

「ひねくれ者」「不平家」と評される

一茶ですが、宗匠としては当然のことながら、門人たちに対してはどこまでも真摯な態度で向き合っていたのです。一茶の見過(みか)すことのできない一面です。

隠された歴史(65)

満田 正賢

前回より、日本最古の漢詩集である懐風藻(かいふうそう)に記された人物の伝記を通じて、日本書紀とは異なる史実を探っています。

今回は、大友皇子伝、河島皇子伝、大津皇子伝、釈智感伝を取り上げました。そこには、壬申の乱によって大海人皇子(天武天皇)に殺された大友皇子が、才能に恵まれた天智天皇の正当な後継者であるにもかかわらず壬申の乱によって皇位を横取りされたこと、大友皇子は藤原鎌足に補佐されていたこと、謀反を起こした罪で殺害された大津の皇子が日本書紀の記述と異なり、持統天皇の実子である草壁皇子より実際には年上であり、その謀反事件には何らかの謀略が感じられること、天武天皇の統治時代に「太后天皇」が存在していたこと、などの記述がありました。そしてそれらの記述をみると、懐風藻の編者が天智天皇と持統天皇の行った行為と日本書紀によって作られた史実に不信感を抱いていることがわかりました。

今回は、文武天皇が皇太子に決まった時のエピソードとして、歴史学者が、懐風藻に記された伝記の中で最も多く取り上げている葛野(かどの)王伝について

考察したいと思います。

文武期は近畿天皇家による日本支配の歴史にとつて、最も重要な時期と言えま
す。過去「隠された歴史(5)」などで何
度もご紹介したように、日本が倭国と言
われてきた時代には五二七年の「継体」
又は五三二年の「善記」から継続的に改
元されてきた年号(*九州年号とも倭国
年号とも呼ぶ)がありました。六四五年
の大化の改新(*九州年号の大化は六九
五年から七〇〇年で、七〇一年の大宝年
号につながる)以降も、九州年号
は常色、白雉、白鳳、朱雀、朱鳥、大化、
とつがっています。そしてこの九州年号
は文武天皇が七〇一年に「大宝」年号を
「建元」することによって消滅します。
近畿天皇家によって改元されてきた年号
は大宝以降現在の令和まで連綿と続いて
います。

私は、九州王朝の権力は六六三年の白
村江の敗戦によって実質的に消滅し、九
州王朝の王家の権威だけが残ったと考
えています。名目的な王朝交代は七〇一
年であろうと思います。

又、中国の正史の一つである旧唐書に
は「倭国伝」と「日本国伝」が併記され
ていますが、「日本国伝」は長安三年(7
03・大宝三年)の粟田真人の唐朝貢記
事から始まります。即ち大宝建元は近畿
王朝による政権交代の宣言であると思わ
れるのです。

まず、前回と同様に、葛野王伝の現代
語訳の抜粋を、講談社・学術文庫の江口
孝夫現代語訳を用いてご紹介します。江
口訳には日本書紀の記述に合わせようと
する傾向が見られるため、重要な部分に
は(*)として注釈を付け加えました。
・王子は天智天皇の御孫、大友皇子の第
一子である。母は天武天皇の第一皇女
の十市内親王である。度量や振舞いは
広く大きく、風采や見識が優れて秀で
ていた。才能は国家主要な職務にあた
るのに十分であり、門地は天子の親族、
皇族であられる。

・天智天皇の正嫡になる方の長男とい
うことでもあり、浄大四の位を授けられ
治部省の長官を拝命されていた。

・天武天皇の御子で(*これは江口氏が
追記したもので本文にはない)太政大
臣に任じられた高市皇子が薨去された
後、持統天皇は皇族諸王百官の者を宮
中に召され、次の皇太子のこと(*原
文は「日嗣を立てむことを」)について
相談された。その時群臣たちはそれぞれ
私情をもたれ、議論は紛糾した。王
子は進み出て申し上げた。「我が国のき
まりでは神代より今日まで、子孫が相
続して皇位をつぐことになっています。
もし兄弟の順を追って相続されるなら
攪乱はここからおこるでしょう。仰ぎ
見ましても天の心を論じ、誰が測るこ
とができませんか。ですから人間社
会の秩序を考えますと、天皇の後嗣は

自然と定めっております。この方以外
に後継になる方はなく、それに対して
たれがとやかく申せましょう」この時、
高市皇子の兄にあたる(*本文にはな
い文言。日本文学大系本が、弓削皇子
を高市皇子の兄と注釈している)のでそ
れを引用したか?弓削皇子は座にお
られ、一言申したいようであった。す
ると葛野王が弓削皇子を叱りつけ、抑
えてしまった。

*日本古典文学大系本(岩波書店)の「懷
風藻」の読み下し文は以下です。

「武市皇子が薨御した後、皇太后が引
いる王公卿士が禁中において日嗣を立
てることを謀る。(中略)王子(*葛野
王)が進んで奏して曰く、我国家は神
代以来、子孫相承を以て天位を襲(つ)
ぐを法と為す也。(中略)弓削皇子
座に在り言有りと欲す。王子之を叱り
止める。」

・持統天皇はその一言で皇嗣が定まった
ことをおほめになり、特別に抜擢され
て式部省の長官に任じられたのである。
その時の年齢は三十七歳であった。

葛野王伝、特に文武天皇の立太子の場
面を描いた記述には違和感があります。

葛野王が持統天皇の意向を察知して、そ
こに立ち会った天武天皇の皇子である弓
削皇子の発言を抑えて、持統天皇の皇子
である草壁皇子の遺児である軽皇子(文
武天皇)を皇嗣に据えるべきだと主張し、

その功績によって持統天皇から式部省の
長官に任じられた、として葛野王の行為
を称賛しているのです。

これは、懷風藻の編者が天智天皇と持
統天皇の行った行為と日本書紀によって
作られた史実に不信感を抱いているとい
う、前回考察してきた結論と異なり、す
なわち懷風藻に記された伝記全体がもつ
「感情」に反した記述になっているので
す。

はたして、この葛野王伝の記述は日本
書紀が記さなかった真実の記述なのでし
ょうか。実は、文武天皇の立太子の場面
を描いた葛野王伝の内容には疑問点が多
くあります。

第一に、天武の皇太子であった草壁皇
子は持統三年(689)に薨御していま
す。持統天皇は持統四年(690)一月
一日に即位し、同年七月五日に高市皇子
を太政大臣に据えています。日嗣の話は
高市皇子が薨御した持統十年(696)
に行っている(*続日本紀には文武の立
太子は持統十一年となっており、この年
に文武は天皇に即位する)のですから、
それまでの十年間は皇太子を決めていな
かった、もしくは高市皇子が皇太子であ
ったということになります。高市皇子が
実際には太政大臣と皇太子を兼ねていた
とした場合、高市皇子の長男である長屋
王にも日嗣の権利がでてくると思われま
すが、そのような記述はありません。と
いうことは、高市皇子が権力を握ってい

たため、持統天皇は高市皇子薨御まで日嗣の話ができなかったということになります。

第二に持統天皇の日嗣選定の場であるならば、持統は皇太后ではなく天皇として記されなければおかしいのです。天武天皇の皇后であったことを強調するならば、皇太后ではなく、釈智藏伝に記された「太后天皇」という表現を使ってしかるべきです。

第三に、壬申の乱で敗れた大友皇子の嫡男である葛野王はある意味敗残者です。葛野王の母が天武天皇の娘の十市皇女であることから、葛野王は天武天皇が十市皇女の助命請願を受け入れたということは考えられますが、天武天皇を継いだ持統天皇の皇嗣を決める場で、天武天皇の皇子を叱りつける立場にあったとはとうてい思われません。

私は、葛野王伝は他の人物の伝記と違い、大友皇子直系の家伝の話が改ざんされたのではないかと推測します。

天武天皇の和風諡号は天淳中原瀛真人（あめのぬなほらおきのまひと）と言ひ、八色の姓において臣下第一を表す真人という文字が使われています。高市皇子が障害になっていたのは、「真人（臣下第一）天皇」としての天武天皇系列の後継者の話ではなく、前回考察した、倭（日本）国王としての太后天皇（倭姫王）の後継者の話ではなかったでしょう。

大友皇子直系の家伝には、釈智藏伝に出てくる太后天皇（倭姫王）から、倭姫王と婚姻して一時的に倭（日本）王を継承した天智天皇の直系の孫である葛野王が改めて倭姫王から倭（日本）国王の位を改めて引き継ぎ、大宝元年（文武五年・七〇一年）に持統天皇隣席のもと、葛野王が倭（日本）国王の地位を文武に譲ることに同意した、という話が記されており、その話が文武元年（六九七年）の持統天皇の日嗣の話として改ざんされて葛野王伝に記載されたのではないのでしょうか。

そのように考えると、文武天皇が「大宝」という年号を建元し、（*続日本紀には改元ではなく建元と書いてあり、明らかに新しい王朝の始まりを記している）この意味も、古い歴史を改ざんし又作文して作られた日本書紀が持統天皇の時代で終わり、文武天皇以降の歴史を続日本紀という、別の史書にまとめた意味も明らかになります。

なお、小学館版「日本書紀」の編者である小島憲之氏は、「上代日本文学と中国文学 下」（塙書房）で懐風藻を取り上げており、そこでは、懐風藻に近江朝に同情的な口吻がみられるとする一方で、天武系の長屋王に近い詩人達の作品が偏在している事実を上げ、政治的な立場と文学的立場とは異なると論じています。

しかし、「真人（臣下第一）天皇」とし

て倭（日本）国王であった倭姫王を支えた天武天皇とその長男である高市皇子が倭（日本）国王であった倭姫王を支えていたという関係、又、倭姫王から倭（日本）国王の地位を一時的に継承した天智天皇とその直系の孫であり倭姫王から再度倭（日本）国王の地位を引き継いだ葛野王、という関係を想定すればどうでしょうか。倭姫王から文武への倭（日本）国王の禅譲を強行させた持統天皇に抵抗する勢力として、天智系統の子孫と高市皇子の嫡男である長屋王との政治的立場の一致も考えうるのではないのでしょうか。

俳句

影山 武司

白梅の香に呼ばれたる神楽坂
枝先に銀の雨粒枝垂梅
魚影のゆるき反転水温む
母と子の影のやはらか草萌ゆる
きさらぎや簞笥の奥に念珠かな
たたなづく山の奥より冴返る
どこからか笑ひ声して木の芽山
日のはうへ蕾を反らし白木蓮
春愁や嬰ハ短調響くカフエ
春愁や青空の青濃きほどに

編集後記

SK生

▲京都の四条河原町を少し西に行ったところにイノブン四条本店の建物がある。よく見るとこの建物の外壁にラテン語の文字が大きく書かれている。一番上から「ゆつくり急げ (FESTINA LENTE)」私が息を吐いている間は望みを持つ (DUM SPIRO SPERO)」「愛は万物を征す (OMNIA VINCIT AMOR)」「友情は人生の塩である (VITAE SAL AMICITIA)」とある。この四つの言葉がどうして選ばれたのか、その由来は不明だが、どの言葉も味わい深い。良い結果が得られなかったら慎重にやれ。生きている限り望みはあるのだ。愛は何よりも強い。友情は人生を豊かにする上で必須のものである。これら古代ローマ人の言葉は違和感なく小生にも納得できるから不思議だ。しかも地球の裏側では悲惨な戦争が続き、庶民の目から見る限り日本の未来は暗いが、やや樂觀にすぎるともいえるこれらの言葉を見ると少し心が明るくなる。▲「友情は人生の塩である」。その通りだ。ありがたいことに友情ともいえる人と人とのつながりで今回も「芥川だより」を出すことができました。最後になったが投稿者の皆さんに感謝の意を表したい。そして、願わくば、この「塩」の効果が今後も絶えることなく続かんことを。

（文中のラテン語の翻訳はラテン語さんの「世界はラテン語でできている」(田新書 2024年刊)を参照しました。)

令和五年の師走に投稿された句の
数々にさまざまな思いがめぐります。

片仮名語辞書備えても追いつかず

いぶき

字は読める意味は不明のカタカナ語

憲清

あらゆる分野の仕様書や取扱説明書
に、外来語としてまだ定着していない
カタカナ言葉が洪水のようにあふれだ
したのはいつ頃からでしょうか。日本
語に翻訳をせず、カタカナのままに「言
つちやえ、行つちやえ」と言わんばかり
の風潮は、一方ではその分野の専門
家の怠慢なのか。また他方では、それ
を許す社会全体の言語能力の衰えなの
か。あるいは、何もかもが国際化する
中での言葉の自己発展に過ぎないのか。
それにしても古い人間としては、昔々
新型テレビの宣伝文句にあったように、
カタカナ語に向かって「○×▼※↓◆、
日本語で言ってみな！」と言いたくな
ることが多々あります。

YES NOははっきり言えば角が立
つ

正彦

人生は白黒つけぬ事だらけ 敦

そうかも知れませぬ。しかしそれ
でも、「言わざるを得ないじゃなくて言

いなさい」と、自分に対してだつて言
いたくなることがあります。

干涸びた脳にひらひら降りる語彙

浜子

あと一句半日かけて出てこない

幸子

番傘川柳本社の社友・木津川計は名
著『人生としての川柳』（角川学芸ブ
ックス、二〇一〇年）の中で『必死にな
るとひらめかない』ひらめきは、不意
に思考の戸を叩く」と述べて、「言葉が
降るのでそっと受けとめる」（ふじむら
みどり）の句を紹介している。そして
言う、「散文と違って川柳は十七音の小
世界である。適切で、しかも斬新な言
葉で仕上げて読み手を唸らすのは容易
な技ではない。『掬ぎたての言葉しっか
り鍵をかけ』（久保内あつ子）る川柳家
は、常套表現と絶縁し、いつも空から
降る言葉の待ち人である」と。
パーティー券慌てて辻褃をあわず

節子

政権党議員に際限なく広がる売上金

不記載問題は、辻褃合わせの辻褃も合

わず、延々と続く政治と金の闇の世界

を浮き彫りにして収まるところを知り

ません。公明正大な政治をと、莫大な

税金を投入した政党助成金制度をつく

り、「金のかからぬ」選挙制度と称して
小選挙区制を導入しても、政治と金の
闇は断ち切れなかった。あるいは、導
入した制度そのものが政治の怠慢・劣
化を促進したのか。

新聞投句にありました、「お仕舞い

に解散パーティー開きそう」（本間

勝）。中八の句であっても、川柳っ子は

黙っていられたかったのでしょうか。

長々と書いたことが見事に、「川柳で言

えば十七音で済み」ました。

ムンクの叫び世界の平和こだまする

喜一郎

プーチンとガザの紙面は飛ばし読み

幹夫

神仏何をしてるかガザを見よ

季生

小春日のこの一瞬も戦死者が

ミヤ子

おだやかな年を願って夜明け待つ

昌恵

東西冷戦が三十数年も前のこととな

つても世界では力と力の対立が続き、

戦争や紛争が絶えません。ウクライナ

戦争二年目の昨秋、ガザに戦火が飛び

火しました。「考える輩」には手に負え

ないことなのか、「戦争も平和も神が決

めるのか。「戦争も平和も人が創るも
の」なのに。

また、誰もが穏やかな年明けを願っ

た元旦に、能登半島大地震が起きまし

た。ガザの戦火を見て「天災のように

勃発するいくさ」と思ったのも束の間、

またしても天災の勃発です。切に復興

を祈ります。それにしても、備えと対

応を誤れば天災は、人災の様相を濃厚

に帯びて来るものです。

冬銀河宇宙旅行に来たようだ

静代

漆黒の闇に光る冬の銀河を仰ぎ見た

感慨。目に痛いほどの輝きで迫って来

る光景は、まるで、宇宙旅行に出た自

分が宇宙の真ん中を漂っているかのよ

う。自然の中の、大宇宙の中の私を実

感した句。

幸せを託してしるす母子手帳

秋子

「秋の灯にひらがなばかり母の文」

という俳句（倉田紘文）を思い出しま

した。「幸せの足し算をして母になる」

のですね。

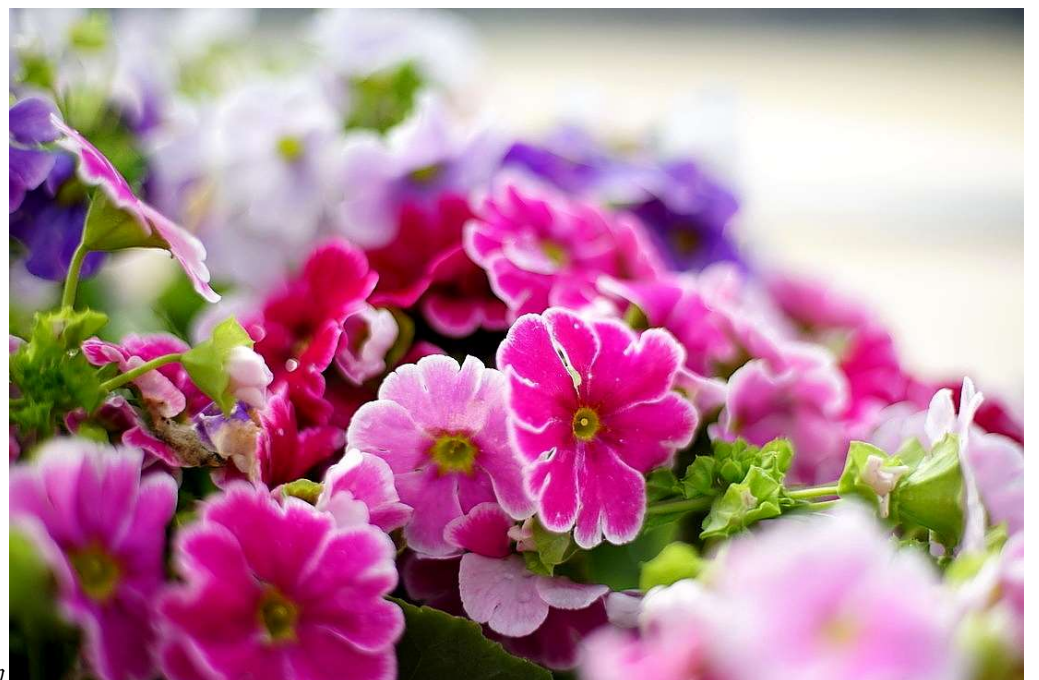
季節の花々



黄水仙



路の臺



プリムラ・オブコニカ